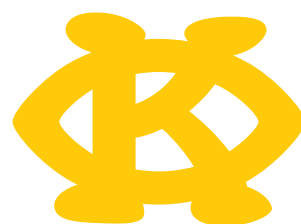




**KEIO
RUGBY**



法人概要

一般社団法人 慶應ラグビー倶楽部

2021年5月現在



ごあいさつ



一般社団法人 慶應ラグビー倶楽部
代表理事 川上 純一

一般社団法人慶應ラグビー倶楽部は、2018年3月設立後、多岐にわたりチャレンジングな課題に取り組み、日本ラグビー界のみならず多方面から、多くの激励と支援の声をいただき運営を行ってまいりました。皆様より頂戴した貴重な資金は、慶應義塾体育會蹴球部の強化はもちろんのこと、産官学連携、一貫校教育、安全管理の徹底、食環境の充実、社会地域貢献、国際交流等にも有効に活用し、今後の活動の道筋が見え始めてきました。これまでのご支援に厚く感謝を申し上げます。

昨今、日本スポーツ界では各種目不祥事が露呈し、各方面よりガバナンス体制の不充分さが指摘されています。また、大学ラグビーでも科学的知見に基づく専任コーチによる最新指導、安全対策や栄養学に基づく食事と身体づくりなど、これらの活動を支援するには、これまで以上の資金が不可欠となっています。一方、ラグビーワールドカップ日本大会大成功の陰には、プロ化や商業主義の対角線上にあるアマチュアラグビーの将来が、どのような形で発展していくのが懸念されております。2024年に創部125周年を迎える慶應義塾体育會蹴球部は、日本ラグビールーツチームとしていつの時代でも、その時々荒波の先頭を切って乗り越えていく使命と責務があります。

ガバナンスと資金問題に解を得るべく立ち上げた私共一般社団法人慶應ラグビー倶楽部は、学生・アマチュアラグビーの新たな支援の象徴として注目され、その趣旨に多くのご賛同いただき、意を強くしているところです。ただ、安定的な支援体制にはまだまだ不十分です。立ち上がったこの流れを巡航速度に乗せるべく、今一度、ご協賛・ご寄付のご協力を賜りたく切にお願い申し上げます。

大舞台でプリンスイエローと黒のジャージが躍動し、強豪チームに対しサイズは小さくとも躊躇の無いタックルが低く突き刺さる果敢なプレーは、小中高生ラガーの憧れの的になり、また観戦して「感動をありがとう」と老若男女を問わない熱いご声援もいただいております。小が大に挑むチャレンジャーの活躍は、「魂のラグビー」と評されています。しかしながら、創部100周年にあたる1999年に成し遂げた三度目の大学選手権優勝からしばらく大学日本一の座から遠ざかっております。現役部員は、文武両道の大学生活と知恵ある練習でKEIO WAYを貫き、四度目の大学日本一を目指し精進を続けています。皆様とともにその感動と熱い思いを共有できればこんな幸せなことはありません。ご協力とご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。





概要

社 名 一般社団法人 慶應ラグビー倶楽部
 英文社名 KEIO RUGBY CLUB
 設 立 日 2018年3月1日
 所 在 地 〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
 慶應義塾体育会本部内
 オフィス 〒223-0062 神奈川県横浜市港北区日吉
 本町 2-59-7
 慶應義塾大学体育会蹴球部内
 代表理事 川上 純一
 専務理事 市瀬 豊和
 理 事 小茂鳥 潤 稲垣 純一
 高橋 明良 馬場 靖
 玉塚 元一 吉澤 英雄
 渡瀬 裕司 中野 忠幸
 油山 哲也 志村 良輔
 高田 晋作 岡部 雅之
 和田 康二 廣瀬 俊朗
 監 事 田治 之佳 林 友紀子
 顧問 中崎 修
 社 員 数 41名(令和3年5月現在)

事業内容 フルタイムコーチの雇用
 新クラブハウスの建設
 グラウンド人工芝張替
 創部120周年事業
 港北区スポーツ未来授業
 地域型有料ラグビーアカデミー
 スポーツキャンパス構想プロジェクトの推進
 ヘルスデータ等の収集・分析
 ビジネスフォーラムの運営
 KRC会(賛助会)の運営

社団法人 設立の目的

私たちが掲げる「スポーツを通じた経済の活性化」、「社会との共存共栄」、「リーダーシップのある人材輩出による社会への貢献」の三つのビジョンを実現するためには、移り変わる社会のニーズを踏まえながら、一貫教育校を含む慶應ラグビー全体の強化と人材育成を進める必要があると考えております。強化において人材獲得・良質な指導体制の構築・トレーニング環境の充実等を支援し、大学スポーツの活性化を目指します。そして、チーム力向上とともに私たちが拘るのは、一人ひとりのリーダーシップ醸成、柔軟な思考を持つグローバル人材の育成です。そのためにも、大学との共同研究、社会貢献・地域貢献活動等の事業を充実させ、グラウンド内外で慶應ラグビーと社会との接点をより深めていきます。慶應ラグビーに関わるすべてのステークホルダーに感謝し、皆様が「応援して良かった」と心から感じていただけるような組織に進化させて参ります。



慶應ラグビー倶楽部

日本ラグビー界発展へ寄与

慶應ラグビーの強化

社会貢献



社会との 共存共栄

テーマ 社会貢献
地域社会との交流

慶應ラグビー倶楽部として取り組む意義

日本ラグビーのルーツ校として、地域や社会の皆様、ファンの皆様とともに新たな時代に対応した学生スポーツの範を示していきたい。

社会からの期待

ラグビースクールなどを通して次世代の選手育成に向けた取り組みを強化し、学生ラグビー、ひいては日本ラグビーの強化につなげていきたい。学生などのボランティア活動を通して、拠点とする日吉の安全や環境改善に寄与していきたい。



慶應ラグビー倶楽部 専務理事
株式会社 山 櫻 代表取締役社長
市瀬 豊和

慶應ラグビーは、その挑戦の過程において多くのファンや地域の方々に支えられてまいりました。その恩返し的心も込めて、私たちは拠点とする横浜市・港北区と連携した地域貢献事業やラグビースクールの運営など新たな試みを始めております。企業が自社の利益のみならず、様々な社会課題の解決を目指す時代です。慶應ラグビーを通して地域や社会の皆様と双方向性のある活動を展開し、よりよい社会の実現の一翼を担いたいと考えています。

人材輩出による 社会への貢献

テーマ 文武両道／リーダーシップ
グローバル人材の育成

慶應ラグビー倶楽部として取り組む意義

リーダーの育成は日本一という目標とともに慶應ラグビーに課せられた社会的使命である。タフな心身を兼ね備えた人材を一人でも多く社会に送り出したい。

社会からの期待

ボーダーレスな社会では言語や習慣の壁を突き抜ける突破力が必要だ。従来の体育会系のイメージを脱し、自ら考えて行動し、人々を牽引するリーダーが求められている。



慶應ラグビー倶楽部 理事
株式会社ハーツユナイテッドグループ 代表取締役社長CEO
玉塚 元一

大学4年の時、我々はハードワークを積み重ねて日本一の直前まで迫りました。文武両道を掲げつつ、勝利に執着する塾蹴球部の伝統があったからこそ、並大抵でない努力を継続できました。労苦をともにした仲間との信頼関係は強固で、強豪校に組織力で対応できたと思っています。これらの経験は、私が社会に出てからの様々な挑戦の根底に流れており、経営者として目の前の壁に真摯に、そして戦略的に向き合う姿勢の土台となっています。世界は凄まじいスピードで変化しています。これからの時代は、グローバルな視座や周囲を巻き込むリーダーシップを身につけた人材が求められていると感じています。

学生スポーツの未来を 切り拓く

テーマ 慶應ラグビー強化

慶應ラグビー倶楽部として取り組む意義

慶應ラグビー倶楽部の支援のもと基盤を強化し、文武両道を守り、一貫教育校との連携、最先端のスポーツ科学の研究・導入などの強化方法を導入することで、慶應ラグビーは学生スポーツの模範、あるべき姿を示すことができると考えています。

社会からの期待

大学スポーツは潜在的に大きな市場があることは、米国の例を挙げれば明らかです。慶應ラグビー倶楽部の設立もこの潮流の中にあり、強化と同時に、大学の教育・研究への貢献、地域への貢献など、新たな価値を創出していきます。



慶應ラグビー倶楽部 理事
慶應義塾體育會蹴球部マネジメントスタッフ / GM
和田 康二

大型化・アスリート化が進む大学ラグビーの強化には、良質なコーチングは勿論のこと、フィジカルコーチやウェイトトレーニング環境、栄養環境の整備が不可欠です。また、限られた人材で最大限戦うために、怪我を予防するための指導や怪我した後のリハビリ体制も充実させる必要があります。学生主導で取り組むべきところと、プロフェッショナルコーチの力を借りるところを見極めながら指導体制を整備しています。資金面の不安定さを払拭することで、ラグビーに全力で取り組む生徒の成長をサポートする指導体制を「持続可能」にしつつ、更に進化させていくことが、慶應ラグビー倶楽部の大きな目的の一つです。

寄附並びに会費の使途に関して

ご寄附頂く篤志に関しては、下記の使途を想定しております。



強化

大学ラグビーの競争は、年々層厳しいものとなっています。他大学がスポーツ推薦制度やスポーツ特待制度で強化を進める中、蹴球部が大学トップレベルであり続けるためには、部員のポテンシャルを最大限に引き出す指導体制構築と環境整備が不可欠です。優れたラグビーコーチは勿論のこと、体づくりや怪我の予防、緊急時対応の観点から、フィジカル(S&C)コーチ、メディカルトレーナーも必要不可欠な人材です。天候に左右されず部員が練習に打ち込むことができる人工芝グラウンドや、体づくりのためのウエイトトレーニング場など練習環境を充実させると共に、志が高く将来性豊かな受験生を確保するためのリクルーティング活動や広報活動も進めていきます。



産学官連携

蹴球部は、大学院システムデザイン・マネジメント研究科(慶應SDM)と共同で、チーム力向上を目的とした研究と研究成果の実践への応用を進めています。具体的には、GPS受信機やドローン等の最先端技術を活用したデータに基づく怪我の予防や戦略戦術立案、指導法の確立に向けた取り組みを実施しています。また、大正製薬株式会社と慶應SDMが連携して進めているアスリート向けリカバリープログラムに関する共同研究への協力も行っています。今後も、蹴球部のノウハウ・人材・データ・施設等を活用した産学官の連携を発展させていきます。



国際交流

大学ラグビーでは2018年度から外国人留学生の出場枠が1枠増え、3選手の同時出場が可能となり、以降多くのライバル校がこの枠を最大限活用しています。塾蹴球部でも、慶應義塾で学び、体育会でラグビーにチャレンジしたいという留学生の受験をサポートしていきます。現に2019年よりNZからの留学生2名が入部し活躍をしています。今後もグローバルな視野を持つ人材の育成のために、以前より関係が深いオックスフォード大やケンブリッジ大など海外チームとの親善試合や海外遠征などを検討していきます。



食環境の充実

アスリート化が進む現代ラグビーの強化には、食環境の充実が欠かせません。蹴球部も食事担当のマネージャーが中心となり、プロチームに引けを取らない栄養管理体制を構築しています。2014年度より、女子栄養大学・上西一弘教授および上西研究室の学生の協力を得て、定期的な栄養講習や栄養分析を実施しています。ラグビー選手は、主食・補食・リカバリー食を含め1日約6000Kcalのエネルギー摂取を必要とします。蹴球部全体では、年間約15トンのお米を消費。朝食のヨーグルトと納豆で各2万食。補食のバナナ1万本など、強化のために食環境の充実に注力していきます。



文武両道

蹴球部は伝統的に、勝利を追求しながら真剣に学業にも取り組む社会の範たる人材を多数輩出してきました。今後も文武両道を体現し、グラウンド内外で模範となる学生の育成を目指します。また、実社会で活躍するOB・OGと学生がコミュニケーションする機会を多く作り、交流を活性化させ、通常授業では得られない学びの場も提供していきます。学業でもラグビーでも一流を目指す活動を通し、慶應義塾が目指す「全社会の先導者」たる人材を今後も育成・輩出していきます。



安全管理の徹底

大学から小学生まで慶應ラグビーにおいては、選手の安全・怪我の予防を第一に考え、日本スポーツ界トップレベルの安全管理体制を整えています。大学と高校では、日本体育協会公認アスレティックトレーナーと学生トレーナーが、内科・脳神経外科専門のチームドクターと連携を取りながら不慮の怪我に備え毎回の練習・試合に帯同しています。万が一の怪我の際は、受傷の初期対応から受診・リハビリ・復帰まで万全のサポートができる体制を整えています。また、日々の健康・疲労状態をチェックするシステムを導入し、日吉キャンパスにある慶應義塾スポーツ医科学センターに協力頂き、3カ月に一回、蹴球部全選手の血液検査を実施するなど、安全に強化を進められているか定期的にチェックしています。更に選手にも怪我の予防の重要性を理解させ、入学後は個別に状態を把握、怪我をしない体づくり、コンタクトの基本スキルを徹底し、大学レベルの試合に十分な準備をさせてから実戦に参加させています。一貫教育校における安全面と体の強化においては慶應高校・志木高校へフィジカル(S&C)コーチ及びメディカルトレーナーを派遣していることで、ベースアップが着実に図れています。今後も、これまで培った知見を活かしつつ、最先端の情報取得、慶應スポーツ医学研究センターとの更なる連携等、安全・健康管理においても常に日本一を目指し、他チームの模範になるような体制構築を目指していきます。



一貫教育

慶應義塾の一貫教育という特徴を活かした育成・強化を進めて行きます。大学と高校、高校と中学の合同練習の機会を作り、選手の育成・強化、及び指導者の交流をはかっています。ゴールデンエイジ期である小学生から中学生年代は、成長に応じた的確なフィジカルトレーニング、スキルトレーニングが大切です。専門のスタッフがデータやテクノロジーを活用した最先端のコーチングを提供する体制を構築中です。現状、大学のレギュラー多数が一貫教育校出身者であり、今後もこの強みを活かすべく、指導者・選手同士の交流を深め、慶應独自の選手育成・強化を進めていきます。



社会貢献・地域貢献

蹴球部は、横浜市港北区と包括連携協定を締結している慶應SDMと共に、地域の小学生を対象にした「スマートスポーツ授業」を2017年から開催しています。これは、地域の小学生の運動能力の向上とスポーツへの関心を高めることを目的にした取り組みで、例えば、小学校でのタグラグビーの授業をより楽しく、わかりやすくするといったことに取り組んでいます。2019年のラグビーワールドカップ日本大会開催後も、東京オリンピック・パラリンピック、そしてその先を見据え、トレーニングやスポーツデータ活用についての公開講座やシンポジウムも開催しています。また、2019年5月には、慶應SDMと連携して「慶應キッズパフォーマンスアカデミー」を開校しました。地域の子供たちを対象としたマルチスポーツ型の運動教室で、蹴球部が持つノウハウを活かした体と心の成長をサポートするプログラムをラグビーグラウンドで実施しています。今後も日本のスポーツ、ラグビー、教育への貢献を通して、より良い社会、未来を作ることを目指していきます。



お問い合わせ

一般社団法人 慶應ラグビー倶楽部事務局

〒223-0062 神奈川県横浜市港北区日吉本町 2-59-7

慶應義塾大学体育会蹴球部内

© 2021 Keio Rugby Club All Rights Reserved.

